

2019 年 3 月 29 日
2019 年 10 月 23 日一部訂正

京都大学重点戦略アクションプラン中間報告 オープンアクセス推進事業（2016-2018）

京都大学図書館機構
オープンアクセス推進プロジェクト

本事業は、WINDOW 構想の実現及びオープンサイエンスの発展に寄与するため、「京都大学オープンアクセス方針」に基づく学術論文の収集と発信を加速するとともに、長年継続してきた貴重な学術資料のデジタルアーカイブ化（電子化と公開）をさらに発展させ、オープンアクセス事業として推進するものである。

事業は、2016 年度～2021 年度までの 6 ヶ年計画である。以下、5 つの事業目標ごとに、2016 年度から 2018 年度までの前半期 3 ヶ年の進捗状況と、後半期の課題を報告する。

〔事業目標〕

1. 学術論文等の研究成果公開の推進
2. 貴重資料デジタルアーカイブの推進
3. コンテンツの国際展開と連携
4. 研究情報の適切な管理と人材育成
5. プロジェクト体制の構築

1. 学術論文等の研究成果公開の推進

1.1. 前半期（2016-2018）成果概要

- ・ 学術情報リポジトリ KURENAI のコンテンツ数は 18 万件を突破した。
- ・ オープンアクセス方針説明会等を実施し、教員からの成果公開協力を得たことや、システム改修による機能向上等の様々な登録推進の結果、世界リポジトリランキング（機関リポジトリ部門）で第 4 位となり、世界的にも高い評価を得た。
- ・ 新たな紀要の登録を行った（2017-2018 年度 18 誌）。特に、1916 年発行の「史林」を 50 年分登録公開したことのインパクトは大きく、今後の研究の活性化に寄与した。

1.2. 進捗状況

KURENAI のコンテンツ登録数は、順調に増加している。2016 年度当初計画においては、到達目標は 20 万件であったが、2017 年度計画においては、到達目標を 21 万件に上方修正した。また、世界リポジトリランキングにおいては、国内順位第 1 位を維持しており、京都

大学の研究成果の発信、社会還元が実現できている。

コンテンツ登録数		
年度	登録数（本文付）	累 計
2016 年度	8,755	162,569
2017 年度	10,147	172,716
2018 年度	9,370	182,086

1.3. 後半期の課題

前半期に実施した説明会等により、オープンアクセス方針は、学内におおむね浸透したと言える。ただし、教員の流動性は高まりつつあるため、継続的な周知活動は必要である。また、出版社等がリポジトリへの登録を認めている研究成果であっても、すべてが登録されているわけではない。そのため、今後さらに、登録プロセスの効率化と登録促進方策の工夫を進め、研究成果の登録率を向上させることが必要である。

1.4. 実施詳細

2016 年度

- ・ 「オープンアクセス方針説明会」を部局等で開催した（計 20 回）。
- ・ 登録状況を図書館機構 Web サイトで公開した。
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/1373843>
- ・ 事業情報を発信するため、国内外での事例報告等を行った（計 14 回）。
- ・ さらに登録作業をシステム面からサポートするため、試験運用を行っていた「リポジトリ登録システム」について、適宜機能改善を実施し、2017 年 3 月末で試験運用を終了した（4 月 1 日から本運用開始）。

2017 年度

- ・ 「オープンアクセス方針説明会」を部局等で開催した（計 9 回）。
- ・ 国立大学改革強化推進補助金の支援を受けて、KURENAI のシステム（DSpace）のバージョンアップを実施した（2017 年 5 月）。これにより、セキュリティの向上、絞り込み機能などの操作性の改善が実施できた。

2018 年度

- ・ 「オープンアクセス方針説明会」を部局等で開催した（計 7 回）。
- ・ これまで未登録だった学内刊行物「哲学研究」（京都哲学会、1916～）、「史林」（史学研究会発行、1916 年～）について、KURENAI への登録を決定・開始した。「史林」は 50 年分を一挙に公開した。なお、対象資料が多いため、登録完了には、3 か年を要する見込

みである。

- ・ 未登録学内刊行物の情報を収集するため、学内図書館・室とともに対象刊行物の調査を実施した。
- ・ オープンアクセス方針の対象論文を KURENAI に登録申請するための「リポジトリ登録システム」にメール送信機能を追加し、業務の効率化を実現した。

2. 貴重資料デジタルアーカイブの推進

2.1. 前半期（2016-2018）成果概要

- ・ 古典籍等一次資料の電子化を進め、3 年間で約 7,000 点、約 73 万コマの電子化を行った。
- ・ 国際的な規格である IIIF(International Image Interoperability Framework) に準拠した画像提供システムである京都大学貴重資料デジタルアーカイブを構築・運用開始した。
- ・ 医学系資料「富士川文庫」の全点公開を行ったことで、利用希望の多かった資料をまとめてデジタル活用できるようにしたことの効果は大きい。
- ・ 関連資料を所蔵している他機関との連携事業を多数行い、複数機関にまたがるデータベース資源の効果的な利用を促進することができた。

[主な連携事業]

- 二条城中井家絵図（二条城関係資料）の公開（連携先：京都市）
- 日本語の歴史的古典籍の国際協同研究ネットワーク事業（連携先：国文学研究資料館）
- 富士川文庫デジタル連携プロジェクト（連携先：慶應義塾大学）
- 韓国古文獻（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）

2.2. 進捗状況

貴重資料の電子化・公開は、本学では 1994 年から取り組んでいる事業である。近年の技術向上により、より高精細な画像を提供できるようになり、多様な研究に活用することが可能となった。本事業と並行して、国内外の他機関と連携することにより経費を確保し、本学所蔵の貴重資料等の電子化・公開を進めた。その結果、2019 年 3 月末現在、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」において、本プロジェクト以前に電子化していたものを含めて、合計 13,522 タイトル、1,157,922 画像を公開しており、順調に進捗している。

2.3. 後半期の課題

2018 年度末までで、13,522 タイトル、1,157,922 画像を電子化・公開したが、本学ではまだ膨大な数の貴重資料を所蔵している。そのため、今後、本事業を一層推進するには、継続

的な予算確保と学内各図書館・室との協力体制が必要となる。

また、画像データの公開にとどまらず、利活用の提案、成果発信のため研究者等ユーザーとの情報交換、連携を進めることも必要であり、専門知識を有する人材の育成が求められる。

2.4. 実施詳細

2016 年度

- ・ 新たに総数約 2,700 点、約 28 万コマの電子化を実施した。
- ・ 本事業経費の他、附属図書館経費をはじめ、以下の事業と連携して電子化・公開を実施した。
 - 京都大学附属図書館所蔵「富士川文庫」保存・公開のための修復・電子化事業－わが国の医学の歴史を俯瞰する研究基盤構築のために－（機能強化経費）
 - 世界トップ大学に伍する戦略的アプローチ～国際プレゼンス、レピュテーション向上による大学経営体制の強化（自立促進）～（国立大学改革強化推進補助金）
 - 韓国古文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）
 - 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

2017 年度

- ・ 新たに約 3,400 点、約 35 万コマの電子化を実施した。
- ・ 各部局が所蔵する貴重資料を電子化するため、図書館協議会第二特別委員会において、「貴重資料等の電子化計画」を策定した。
- ・ 電子化画像の相互運用性とアクセス性を向上させる国際的な規格である IIIF（International Image Interoperability Framework）に準拠した画像提供システムである京都大学貴重資料デジタルアーカイブを構築した（2017 年 9 月 7 日試験公開、2017 年 12 月 1 日正式公開）。
- ・ 医学分野の貴重資料コレクション「富士川文庫」の電子化完了（2018 年 4 月公開）。
- ・ 従来「京都大学電子図書館貴重資料画像」サイトで公開していた画像や解説等の「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」への移行を開始した。
- ・ 本事業経費の他、附属図書館経費をはじめ、以下の事業と連携して電子化・公開を実施した。
 - 京都市との連携による中井家文書の電子化と貴重資料画像の国際流通性向上事業（全学経費）
 - 京都大学附属図書館所蔵「富士川文庫」保存・公開のための修復・電子化事業－わが国の医学の歴史を俯瞰する研究基盤構築のために－（機能強化経費）
 - 世界トップ大学に伍する戦略的アプローチ～国際プレゼンス、レピュテーション向上による大学経営体制の強化（自立促進）～（国立大学改革強化推進補助金）
 - 韓国古文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）

- 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

2018 年度

- ・ 新たに約 800 点、約 10 万コマの電子化を実施した。
- ・ 従来「京都大学電子図書館貴重資料画像」サイトで公開していた画像や解説等の「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」への移行を完了した。移行完了に伴い、前者サイトは公開終了とした（2019 年 2 月 28 日）。
- ・ 本事業経費の他、附属図書館経費をはじめ、以下の事業と連携して電子化・公開を実施した。
 - 人文学・社会科学系分野の論文情報の拡充（研究大学強化促進事業）
 - 韓国古文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）
 - 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」

3. コンテンツの国際展開と連携

3.1. 前半期（2016-2018）成果概要

コンテンツの国際的な流通や可視化向上をはかるため、メタ・データの充実を図った。

[KUNENAI 収載論文]

- ・ 論文著者名のローマ字化（2016 年度 61,680 件）
- ・ 英文タイトルメタデータ化、出版者英語名追加（2017 年度 17,384 件）
- ・ 英文抄録のメタデータ化（2018 年度 3,061 件）

[電子化画像]

- ・ 貴重資料メタデータへのローマ字タイトルの付与（外注によるもの：2016-2017 年度合計 13,226 件。2018 年度分は外注によらず付与のため件数は抽出できない。）

学外コミュニティとの連携のため、次の組織に参加した。

- ・ arXiv（機関会員）
- ・ IIF Consortium（機関会員）
- ・ ORCID（機関会員）
- ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）（機関会員） 他

3.2. 進捗状況

コンテンツの発見可能性を高めるメタデータの充実化は、遡及的な入力も含めて順次進めている。「KUNENAI」においては、システムのバージョンアップにより、検索エンジンとの親和性が高まったこともあり、世界リポジトリランキングにおいて高評価を得ている。「貴重資料デジタルアーカイブ」においては、IIF に対応したシステムを構築したことによ

り、他機関との連携が始まるなど、今後の国際展開に向けた基盤を構築することができた。

3.3. 後半期の課題

「JPCOAR スキーマ」は、機関リポジトリのメタデータの国際的な相互運用性を向上させる新しい規格である。KURENAI を JPCOAR スキーマに対応させることにより、コンテンツのさらなる国際展開が可能となる。

また、KURENAI には人文・社会科学系分野の重要な研究成果である紀要等の論文が数多く登録されている。これらの論文について、研究者の国際的な識別子である ORCID を活用することで、国際流通性を高めることができるため、KURENAI を ORCID に対応させる必要がある。

貴重資料デジタルアーカイブにおいては、コンテンツ公開にとどまらず、その利用促進のため、他機関と連携して IIF の相互運用性を活用した取り組みを行うなど、今後の共同研究促進に貢献する必要がある。

3.4. 実施詳細

2016 年度

- ・ KURENAI 及び電子化画像の国際流通促進（可視性向上）を図るため、論文の著者名のローマ字化（61,680 件）及び貴重資料メタデータへのローマ字タイトルの付与（5,705 件）を行った。
- ・ 研究コミュニティでの研究成果の共有・国際的な流通を促進するため、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）や IIF コンソーシアムの機関会員に加盟するなど、オープンアクセスやデジタルアーカイブについて、学内外の関連組織と連携して事業を推進した。

2017 年度

- ・ KURENAI 及び電子化画像の国際流通促進（可視性向上）を図るため、英文タイトルのメタデータ化、出版者英語名追加（17,384 件）及び貴重資料メタデータへのローマ字タイトルの付与（7,521 件）を行った。
- ・ 国立大学改革強化推進補助金の支援を受けて、IIF に準拠した画像配信システムである「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」を構築した。（2017 年 9 月試験公開、2017 年 12 月正式公開）
- ・ IIF コンソーシアム活動へ参画し、IIF 国際会議（2017 年 6 月）に出席するとともに、事業の情報発信のため、京都大学図書館機構講演会「デジタルアーカイブの新たな展開と可能性 ―IIF の動向と活用例から考える―」（2017 年 10 月）を開催した。
- ・ 貴重資料等の一次資料画像の国際的な流通を促進するため、「京都大学図書館保管資料特別利用規則」の改正、「京都大学附属図書館本館における『インターネット上で公開するデジタルデータの特別利用』の条件に係る内規」の制定により、電子画像の利用手続

を現在の公開環境に適したものにし、利用の促進を図った。

2018 年度

- ・ KURENAI 登録コンテンツの国際流通促進（可視性向上）を図るため、メタデータ化されていなかった欧文抄録をメタデータとして KURENAI に登録した（3,061 件）。
- ・ 「中国思想史研究」165 件、「史林」1968 年から 2018 年までの 50 年分（2,726 件）を KURENAI に登録・公開した。
- ・ KURENAI は世界リポジトリランキングにおける機関リポジトリ部門において、世界第 4 位と評価された（5th Edition, (January 2019) ）。
<http://repositories.webometrics.info/en/institutional>
- ・ 「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」の利用促進、IIIF の有用性の事例構築のため、他機関が公開するコンテンツとの連携を行った。
 - 富士川文庫デジタル連携プロジェクト（慶應義塾大学）
 - SAT 大蔵経テキストデータベース（SAT 大蔵経テキストデータベース研究会）
 - 蔵書印データベース（国文学研究資料館）
- ・ 京都大学貴重資料デジタルアーカイブの利用状況（2017 年 10 月 4 日～2018 年 11 月 30 日）を解析し、KURENAI に登録・公開した。
 - 西岡千文（2019）「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ利用状況報告 2017 年 10 月 4 日～2018 年 11 月 30 日」<http://hdl.handle.net/2433/237320>
- ・ IIIF についての理解を深めるために図書系職員向け実務研修として「IIIF が定める国際規格 Image API と Presentation API を中心に」を開催した（2018 年 9 月 15 日開催、11 名参加）。

4. 研究情報の適切な管理と人材育成

4.1. 前半期（2016–2018）成果概要

オープンアクセスや研究公正等の、学術情報の収集・発信に係る新たな展開に対応するため、人材育成を図るとともに、研修や調査で得られた知見の共有を図った。

[主な調査・研修等派遣先]

- ・ CERN（欧州原子核研究機構）への派遣（2016 年 3 月から 1 年）
- ・ 北米大学図書館の動向調査（2018 年 2 月）
- ・ ドイツ・オランダの研究データマネジメントサービスとデジタルアーカイブ活用事例調査（2019 年 1～2 月）
- ・ IIIF コンソーシアム年次総会への参加及び研究発表（2017 年、2018 年）

また、学生等の学内研究者のためのセミナー等を実施し、オープンアクセスや研究公正等の意識向上を図った。

- ・ 論文投稿セミナーの実施（2016～2018 年度 毎年実施）
- ・ オープンアクセス誌の評価に関する説明やハゲタカジャーナルに対する注意喚起の実施（2018 年度 計 15 回） など

4.2. 進捗状況

- ・ 職員を海外派遣し、国際的な学術情報の収集・発信に係る新たな展開に対応できる人材を育成。
- ・ 2018 年度は、オープンアクセスや研究公正などのリテラシー教育を含む講習会を年間 15 回開催し、オープンアクセスや研究公正に関する素養を身に着けた学生の育成に貢献した。
- ・ 研究データ管理サービスを設計するため、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）が作成したオンライン教材の試用プロジェクトに計 20 名の職員が参加し、今後の支援サービス設計に活かす予定。

4.3. 後半期の課題

研究データのオープン化に活動を広げ、オープンサイエンスにおける世界的なイニシアティブを確保する。また、オープンサイエンスのためのデータ基盤として、リポジトリの整備活用を一層進める。

同時に、オープンサイエンス支援を行う人材育成をより一層充実させる。

また、研究データの管理・データのオープン化を含むオープンサイエンス、研究公正の素養をより一層学生に身に着けさせる活動を進展させる。

4.4. 実績詳細

2016 年度

- ・ オープンサイエンスや研究公正などの学術情報の収集・発信に係る新たな展開に対応できる人材育成のため、職員 1 名を CERN（欧州原子核研究機構）に派遣した（2016 年 3 月から 1 年間）。
- ・ オープンアクセスや研究公正などのリテラシー教育を含む講習会を開催した（計 4 回）。

2017 年度

- ・ 出版社等との共催により、学生向け論文投稿セミナーを開催した。
 - － 「難関ジャーナルでアクセプトを勝ち取る」（2017 年 6 月）
 - － 講演会「オープンサイエンスが拓く新たな学術コミュニケーションとプラットフォーム」（2017 年 9 月）
 - － 「院生・若手研究者のための英語論文執筆セミナー：社会科学系/人文科学系編」（2017 年 11 月）

2018 年度

- ・ 京都大学附属図書館研究開発室セミナー「研究データ管理と大学図書館-北米大学の事例を中心に-」を開催した（2018 年 6 月）。
- ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) が作成したオンライン教材「研究データ管理サービスの設計と実践」の試用プロジェクトに参加した。当事業プロジェクトチームメンバーの他、情報環境機構、工学研究科、企画・情報部、北構内事務部、学術研究支援室の教職員 20 名が参加した。
- ・ 図書館機構講演会「オープンサイエンス時代の大学図書館－これから求められる人材とは－」を開催した（2019 年 2 月）。
- ・ 学生向けのセミナーを開催した。
 - 「論文投稿で後悔しないために：身に付けておくと差がつくジャーナルの知識」（2018 年 5 月）
 - 「研究成果発信のための Web of Science 活用セミナー」（2018 年 6 月）

5. プロジェクト体制の構築

5.1. 前半期（2016-2018）成果概要

本事業は、専門的有識者として助教 1 名と、附属図書館および部局図書系職員からなるプロジェクト推進チームを編成して推進している。この体制により、オープンアクセスを推進するための知見の獲得と実務ベースへの落としこみ、職員の育成にも成果が出ている。

5.2. 進捗状況

推進体制として、2016 年 5 月にプロジェクトチームを設置した。2017 年度から専門的有識者の雇用体制を進め、2017 年 11 月より助教 1 名の体制が整った。

チーム発足当初は附属図書館職員が構成員となりプロジェクトを推進し、2017 年度から順次、部局図書系職員を加えてプロジェクトチームを再編した（2017 年度文系・北部・医学）。さらに、2018 年度には桂図書館で新たに開始する研究支援業務の準備のため、工学研究科の図書系職員をチームに加え体制を強化した。

5.3. 後半期の課題

図書館機構の将来構想に沿った業務の再構築の検討を行い、オープンアクセスやオープンサイエンスに関する知識・技能・ノウハウを図書館職員が習得し、通常業務として運用できるような業務の確立に向けての体制を整え、図書館による研究支援機能を高度化するための方策をさらに展開する必要がある。

5.4. 実施詳細

2016 年度

- ・ 本事業を推進する体制として、2016 年 5 月にプロジェクトチームを設置した。

2017 年度

- ・ 附属図書館外の部局図書系職員を加えて、プロジェクトチームを再編した。
- ・ 2017 年 4 月に専門的有識者 1 名（特定職員）を雇用し、11 月からは助教 1 名の体制になった。

2018 年度

- ・ 研究データ管理サービスの検討に対応するため、桂図書館を担当する工学研究科の図書系職員を加えて、プロジェクトチームを再編した。

6. 経費と事業連携

6.1. 前半期（2016–2018）成果概要

- ・ 学内では、学術研究支援室（KURA）の研究大学強化促進事業との連携をはじめ、基盤強化経費、機能強化経費、国立大学改革強化推進補助金および全学経費等などの予算配分を受けることができた。
- ・ 国内外の他機関とも連携し、韓国古文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）、日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業（国文学研究資料館）の経費により、オープンアクセス事業を進めた。
- ・ 京都大学が所蔵する貴重な古典籍資料のデジタル化・公開を進めるため、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金」を設置した。（2018 年 7 月）

6.2. 進捗状況

本事業経費により、前半期の課題であったリポジトリシステムの更新や IIIF に準拠した画像配信システムの構築などのシステム整備を達成し、オープンアクセスを推進する一定の環境を整えることができた。また、本事業経費以外にも多くの財源を確保することができ、KURENAI および貴重資料画像のコンテンツ整備を順調に進めることができた。「富士川文庫デジタル連携プロジェクト」、「SAT 大蔵経 DB（大正新脩大蔵経テキスト部分 85 巻の全文検索サービス）」との相互リンク、「国文学研究資料館蔵書印データベース」との相互リンクなど、コンテンツの利活用への連携を実現することができた。

6.3. 後半期の課題

重点戦略アクションプランの当初計画では、前半期でリポジトリシステムの更新や IIRF に準拠した画像配信システムを構築し、後半期ではさらにコンテンツの充実を図り、オープンアクセス事業は一定の段階まで達するという執行計画であった。しかし、その後、オープンサイエンスをめぐる動向から、研究情報管理・研究データ管理という課題が本格化してきたため、学内外の機関と連携し、研究データ管理の支援を行う仕組みの設計のための財源確保が必要となる。また、リポジトリおよび貴重資料画像のコンテンツ整備には、継続して予算が必要であり、今後も様々な財源を確保していく必要がある。

6.4. 実施詳細

※括弧内は経費名称または経費負担機関

2016 年度

- ・ 学術情報リポジトリ構築推進事業（基盤強化経費）
- ・ 京都大学附属図書館所蔵「富士川文庫」保存・公開のための修復・電子化事業－わが国の医学の歴史を俯瞰する研究基盤構築のために－（機能強化経費）
- ・ 人文学・社会科学系分野の論文情報の拡充（研究大学強化促進事業）
- ・ 世界トップ大学に伍する戦略的アプローチ～国際プレゼンス、レピュテーション向上による大学経営体制の強化（自立促進）～（国立大学改革強化推進補助金）
- ・ 韓国古文文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）
- ・ 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業（国文学研究資料館）

2017 年度

- ・ 学術情報リポジトリ構築推進事業（基盤強化経費）
- ・ 京都市との連携による中井家文書の電子化と貴重資料画像の国際流通性向上事業（全学経費）
- ・ 京都大学附属図書館所蔵「富士川文庫」保存・公開のための修復・電子化事業－わが国の医学の歴史を俯瞰する研究基盤構築のために－（機能強化経費）
- ・ 人文学・社会科学系分野の論文情報の拡充（研究大学強化促進事業）
- ・ 世界トップ大学に伍する戦略的アプローチ～国際プレゼンス、レピュテーション向上による大学経営体制の強化（自立促進）～（国立大学改革強化推進補助金）
- ・ 韓国古文文献（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大学校民族文化研究院、人文科学研究所）
- ・ 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業（国文学研究資料館）

2018 年度

- ・ 学術情報リポジトリ構築推進事業（基盤強化経費）
- ・ 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金
- ・ 人文学・社会科学系分野の論文情報の拡充（研究大学強化促進事業）
- ・ 洛中洛外図プロジェクト（総合博物館、凸版印刷等）
- ・ 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業（国文学研究資料館）
- ・ 韓国古文獻（韓本）の調査及び解題及びデジタルイメージの構築に関する事業（韓国高麗大
学校民族文化研究院、人文科学研究所）
- ・ 京都大学若手人材海外派遣事業ジョン万プログラム